



## Cisco Business Edition 7000H/M (M5)、リリース 12.5 (CSR 12.7) の 設置ガイド

初版：2020年11月18日

最終更新：2021年2月19日

最終更新：2021年2月19日

### シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（[www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NON-INFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at [www.cisco.com/go/offices](http://www.cisco.com/go/offices).

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2021 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



## 目次

---

### 第 1 章

#### Cisco Business Edition 7000H/M の概要 1

このガイドの対象ユーザ 1

Business Edition 7000H/M アプライアンスのインストールに必要なドキュメント 2

---

### 第 2 章

#### Cisco Business Edition 7000H/M のインストール 5

導入の設計 5

UC アプリケーションの計画 5

必要なネットワーク情報の収集 6

アプライアンスの設定 6

仮想化ソフトウェアおよびアプリケーション ソフトウェアのインストール 6

データストアにプリロードされているファイルタイプ 6

Cisco Business Edition 7000H/M のインストール タスク フロー 7

未使用または不要な仮想マシンの削除 15

アプリケーションのセットアップ 16

仮想マシン OVA の導入 18

Cisco Unity Connection 用の仮想マシンのカスタマイズ 19

アプリケーション ISO ファイルと仮想マシンの関連付け 20

ゼロタッチ インストールを使用した UC アプリケーションのインストール 21

応答ファイルの生成 21

仮想フロッピー イメージの作成 22

仮想フロッピー イメージのデータストアへのアップロード 23

仮想マシンでの仮想フロッピーのマウントとブート オプションの設定 24

ゼロタッチ インストールの実行 24

UC アプリケーションの手動インストール 25

---

第 3 章	<b>Cisco Business Edition 7000H/M のインストール後</b>	<b>27</b>
	Cisco Business Edition 7000H/M のインストール後	27
	ライセンスアプリケーション	27
	アプリケーションのロケールまたはパッチのインストール	29
	仮想マシンとのバンドル ロケールまたはパッチ ISO の関連付け	30
	Unity Connection のサービスの停止	30
	新しいロケールまたはパッチのインストール	31

---

付録 A :	<b>Business Edition 7000 アプライアンスの再構築</b>	<b>33</b>
	Business Edition 7000 アプライアンスの再構築	33
	ハードウェアおよび仮想化ソフトウェアの再インストール	33
	埋め込み仮想化ライセンスの再適用	34



# 第 1 章

## Cisco Business Edition 7000H/M の概要

---

- [このガイドの対象ユーザ](#) (1 ページ)
- [Business Edition 7000H/M アプライアンスのインストールに必要なドキュメント](#) (2 ページ)

### このガイドの対象ユーザ

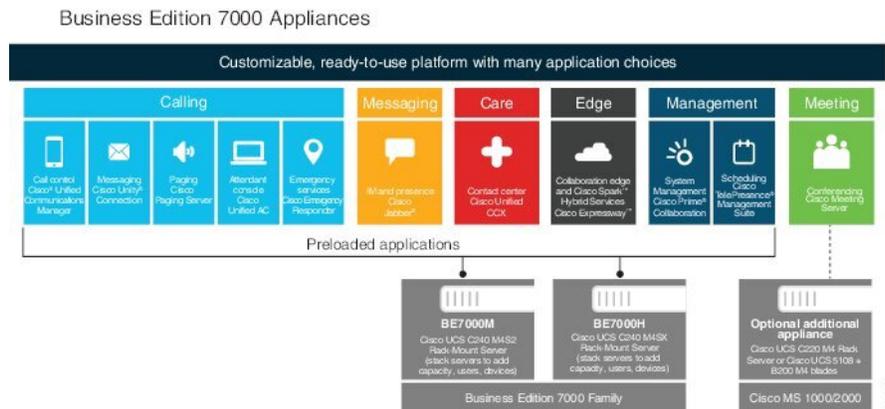
このガイドは、Business Edition アプライアンスを設定するのに役立ちます。また、ビジネスニーズに合わせてカスタマイズするために必要な事柄についても説明されています。

次の質問に回答して、セットアップを開始してください。

- 出荷時にロードされるソフトウェアを使用して、Cisco Business Edition アプライアンスにアプリケーションを手動でインストールしていますか。
- Collaboration System Release 12.7 以降からアプリケーションバージョンをインストールしていますか。はい、このインストールガイドが適用されます。インストールされていない場合、アプリケーションが ESXi 7.0 をサポートしていない可能性があります。また、出荷時にロードされているソフトウェアを利用することはできません。Collaboration System Release 11.x のアプリケーションは、この記事の作成時点で工場出荷時にアプライアンスにインストールされなくなっています。

Business Edition 7000 アプライアンスは、次のとおりです。

図 1: Business Edition 7000 アプライアンス



(注) シスコパートナーは、<http://www.cisco.com/go/bepartner> で、詳細情報を入手できます。



**注意** 出荷時にロードされている仮想化ソフトウェアを再インストールしないでください。ディスクの再フォーマットや、ストレージハードウェアアレイの再構築は行わないでください。いずれの操作によっても、出荷時にプリロードされたソフトウェアが消去されてしまい、インストール後のライセンスの問題が発生します。

## Business Edition 7000H/M アプライアンスのインストールに必要なドキュメント

このドキュメントの手順のみを使用して、インストールを続行することができます。また、導入オプション、機器、およびアプリケーションの項目に記載されているドキュメントも参照することができます。これらのすべてのドキュメントは、<http://www.cisco.com/go/virtualized-collaboration> および <http://www.cisco.com/go/be7000> から参照できます。

製品バージョンを選択してから、次のドキュメントを参照してください。

- 導入オプション：導入を計画する際に役立つ情報については、ビジネスニーズに関連した『Preferred Architecture』ガイドおよび『Cisco Validated Design』を参照してください。
- 機器：『クイック スタート ガイド』を参照して、アプライアンスを開梱してラックに設置します。
- アプリケーション：アプリケーションの詳細については、次のドキュメントを参照してください。
  - 『Cisco Business Edition 6000 and Cisco Business Edition 7000 Co-residency Policy Requirements』：このドキュメントは、Cisco Business Edition 7000 システムへのインス

トールに使用できるシスコの仮想アプリケーションと、Business Edition アプライアンスでこれらのアプリケーションおよびサードパーティ製アプリケーションを実行するために満たす必要がある条件について説明します。

- 『*Business Edition 7000 Software Load Summary*』：このドキュメントでは、サーバのデータストアにプリロードされている ISO ファイルと OVA ファイルについて説明しています。
- UCアプリケーションのその他のドキュメントについては、[コンポーネント ドキュメンテーション (Component Documentation)] タブにリストされています。





## 第 2 章

# Cisco Business Edition 7000H/M のインストール

- 導入の設計 (5 ページ)
- アプライアンスの設定 (6 ページ)
- アプリケーションのセットアップ (16 ページ)

## 導入の設計

次のトピックを確認して、導入を設計してください。

## UC アプリケーションの計画

はじめる前に

Cisco Business Edition 7000 サーバがラックに取り付けられ、電源およびデータ ネットワークに接続されていることを確認します。手順については、サーバに付属する『*Quick Start Guide for Cisco Business Edition*』を参照してください。次の場所からコピーをダウンロードすることもできます。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-installation-guides-list.html>

インストールを開始する前に、インストールする UC アプリケーションを計画してください。

インストールに使用できる UC アプリケーションと Business Edition コラボレーション導入の設計方法については、次のサイトを参照してください。

- 『*Cisco Business Edition 6000 and Cisco Business Edition 7000 Co-residency Policy Requirements*』：このドキュメントは、Cisco Business Edition 7000 システムへのインストールに使用できるシスコの仮想アプリケーションと、Business Edition サーバでこれらのアプリケーションおよびサードパーティ製アプリケーションを実行するために満たす必要がある条件について説明します。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-implementation-design-guides-list.html>

- 『*Unified Communications in a Virtualized Environment*』 : この Web サイトでは、Cisco Collaboration Virtualization アプリケーションと、導入の設計方法について説明します。  
<http://www.cisco.com/go/virtualized-collaboration>
- 『*Preferred Architecture Guides for Enterprise*』 : 推奨アーキテクチャのドキュメントと CVD ガイドによって、コラボレーションおよび音声導入の規範的なエンドツーエンドのソリューションを提示します。設計概要では、製品の基本知識と推奨アーキテクチャでの各製品の役割を示します。これには、高レベルのベスト プラクティスが含まれます。CVD ガイドでは、推奨アーキテクチャの実装を合理化するのに役立つより詳しい設計と導入の推奨事項を示します。  
<http://www.cisco.com/go/pa>
- *Enterprise Collaboration CVD Guides* は、Cisco Business Edition 7000 に構築されたコラボレーションソリューションに関する詳細な設計と詳細な導入情報を提供します。これらの CVD は、推奨アーキテクチャの中核的な推奨事項に基づいており、場合によっては、追加のソリューション設計を推奨アーキテクチャに対する拡張または代替として提案します。  
<http://www.cisco.com/go/pa>
- 『*Business Edition 7000 Software Load Summary*』 : プリロードサマリードキュメントは、サーバのデータストアにプリロードされている ISO ファイルと OVA ファイルについて説明しています。  
<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/%20products-release-notes-list.html>

## 必要なネットワーク情報の収集

## アプライアンスの設定

インストールを開始する前に、次のトピックを確認してください。

## 仮想化ソフトウェアおよびアプリケーションソフトウェアのインストール

このセクションでは、プリロードを使用して、Business Edition 7000 に仮想化ソフトウェアおよびアプリケーションソフトウェアをインストールするために実行する必要があるタスクについて説明します。

### データストアにプリロードされているファイルタイプ

Cisco Business Edition サーバは、事前設定された仮想マシンに加えて、指定されたコラボレーションアプリケーションソフトウェアがデータストアにプリロードされた状態で発送されます。アプリケーションインストール用のファイルタイプの内訳を次に示します。

- **ISO ファイル** : ISO ファイルは、アプリケーションインストールファイルを含む DVD イメージです (たとえば、`Bootable_UCSInstall_UCOS_12.5.1.10000-22.sgn.iso`) 。  
UC アプリケーションの ISO ファイルは、そのアプリケーションの OVA ファイルにアプリケーション ソフトウェアが含まれていない場合にのみ存在します。
- **OVA ファイル** : 各 UC アプリケーションには、仮想マシンをパッケージ化して導入するために使用される Open Virtualization Archive (OVA) ファイルがあります。Business Edition サーバの OVA には 2 つのタイプがあります。
  - 一部の OVA (`cucm_12.5_vmv13_v1.0.ova` など) は、VM を定義するテンプレートですが、アプリケーションソフトウェアは含まれていません。これらのアプリケーションについては、関連する ISO ファイルがデータストアに含まれています (たとえば、`Bootable_UCSInstall_UCOS_12.5.1.10000-22.sgn.iso`) 。インストールでは、OVA テンプレートを導入し、関連する ISO ファイルを使用してソフトウェアをインストールする必要があります。
  - 他の OVA ファイルでは、VM を定義し、アプリケーションソフトウェアが含まれます (たとえば、`Bootable-CiscoPagingServer_12.5.1.ova`) 。これらのアプリケーションについては、ISO ファイルがありません。OVA ファイルを使用して VM を導入し、ソフトウェアをインストールできます。

サーバのデータストアにプリロードされている ISO および OVA ファイルについては、サーバのプリロード サマリー (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/%20business-edition-7000/products-release-notes-list.html> [英語]) を参照してください。



- (注) シスコは OVA-ISO ディレクトリをローカルにアーカイブすることを推奨します。ハードウェア障害が発生した場合、代替ハードウェアにはプリロードが含まれていません。プリロードソフトウェアが削除されたり、上書きされたり、失われたりした場合は、プリロードソフトウェアを手動でリビルドする必要があります。工場出荷時のデフォルトの機能への復元はサポートされていません。

## Cisco Business Edition 7000H/M のインストール タスク フロー

Cisco Business Edition 7000 サーバにソフトウェアをインストールするには、次のタスクを実行します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">Cisco Integrated Management Controller の設定 (8 ページ)</a>	Business Edition 7000 サーバの CIMC を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	仮想化ソフトウェアの Remote Access のカスタマイズ (10 ページ) 仮想化ソフトウェアの Remote Access のカスタマイズ (10 ページ)	アプライアンスに事前インストールされている VMware vSphere ESXi ソフトウェアを設定します。
ステップ 3	未使用または不要な仮想マシンの削除 (15 ページ)	不要な事前展開 VM を削除します。

## Cisco Integrated Management Controller の設定

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) は、Cisco UCS アプライアンス用の管理インターフェイスです。CIMC はアプライアンス内で実行し、Web または SSH コマンドライン アクセスにより、アプライアンスのリモート管理、設定、およびモニタリングを可能にします。

カスタマイズおよび事前設定された導入で Business Edition 7000 アプライアンスの CIMC を設定するには、次のタスクを完了します。

Cisco Integrated Management Controller を設定するには、次のタスクを完了します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	電源オンと CIMC の初期設定 (8 ページ)	
ステップ 2	CIMC 設定の完了 (9 ページ)	

### 電源オンと CIMC の初期設定

次の手順を実行して、アプライアンスの電源をオンにして、Cisco Integrated Management Controller (CIMC) の基本的な設定を開始します。

#### 始める前に

『クイック スタート ガイド』の説明に従って、Business Edition 7000 サーバアプライアンスがラックに取り付けられ、電源装置に接続され、データネットワークに接続されていること、およびモニタとキーボードがサーバアプライアンスに接続されていることを確認します。

### 手順

- 
- ステップ 1 電源が接続され、電源ボタン LED がオレンジ色になっていることを確認します。
  - ステップ 2 アプライアンスの電源ボタンを押して、ボタンが緑色に変わるのを確認します。
  - ステップ 3 モニターで起動プロセスを監視します。
  - ステップ 4 青いシスコ ロゴが表示されたら、F8 キーを押して CIMC 設定ダイアログを表示します。

図 2: CIMC ブート画面で F8 キーを押す

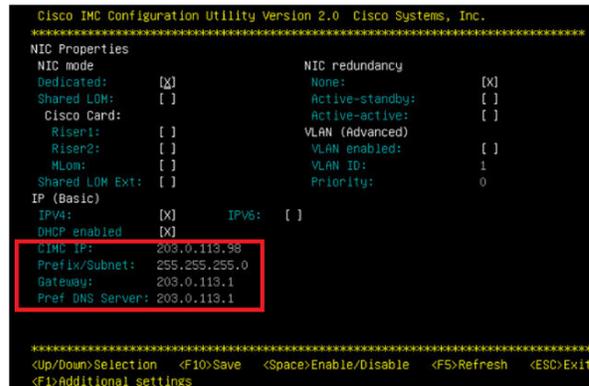


**ステップ 5** プロンプトが表示されたら、ユーザ名 `admin` を入力し、新しいパスワードを作成します。

**ステップ 6** CIMC 設定画面で、次の詳細情報を入力します。

- CIMCのIPアドレス
- サブネットマスク (Subnet mask)
- ゲートウェイIPアドレス

図 3: CIMC の IP アドレスの詳細情報を入力する



**ステップ 7** 完了したら、**F10** キーを押して変更を保存し、システムをブートします。

## CIMC 設定の完了

CIMC インターフェイスの DNS と NTP の設定を行うには、次の手順を使用します。

### 始める前に

サーバの電源をオンにして Cisco Integrated Management Controller (CIMC) の基本的な設定を開始します。

## 手順

- 
- ステップ 1** Web ブラウザで、CIMC の IP アドレスを入力し、前のタスクで作成したユーザ名 `admin` とパスワードを使用してログインします。
- ステップ 2** 左側のメニューから **[Admin]** タブを選択し、**[Network]** をクリックします。
- ステップ 3** メイン画面で、**[Network Settings]** タブを選択します。
- ステップ 4** **[Common Properties]** で、**[Hostname]** の設定を CIMC のホスト名に変更します。
- ステップ 5** **[IPv4 Properties]** で、**[Preferred DNS Server]** を DNS サーバに指定した IP アドレスに変更します。
- ステップ 6** メイン画面で、**[NTP Settings]** タブを選択します。
- ステップ 7** **[ANATの有効化 (Enable NTP)]** チェックボックスを選択します。
- ステップ 8** **[Server 1]** フィールドに NTP サーバの IP アドレスを入力します。
- ステップ 9** ページの右下隅にある **[Save Changes]** を選択します。
- 

## VMware vSphere Hypervisor の設定

VMware vSphere Hypervisor を設定するには、次のタスクを完了します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
<b>ステップ 1</b>	VMware vSphere Hypervisor の Remote Access のカスタマイズ	
<b>ステップ 2</b>	VMware vSphere Hypervisor のアクセスおよび設定	

仮想化ソフトウェアの *Remote Access* のカスタマイズ

VMware vSphere ESXi をカスタマイズして、VMware Embedded Host Client を使用した PC からのリモートアクセスを有効にするには、次の手順に従います。



- (注) ESXi 7.0 を搭載した BE7000 アプライアンスは、`vmfs6` で構築されています。ESXi 6.5 を搭載した BE7000 アプライアンスは、`vmfs5` で構築されています。`vmfs` のバージョンを変更する場合は、アプリケーションのサポートを確認して、アプライアンスを再構築する必要があります。
-

## 手順

**ステップ 1** ハイパーバイザが起動されると、次の図に示すように、ESXi Direct Console のユーザインターフェイスがモニタ上に表示されます。

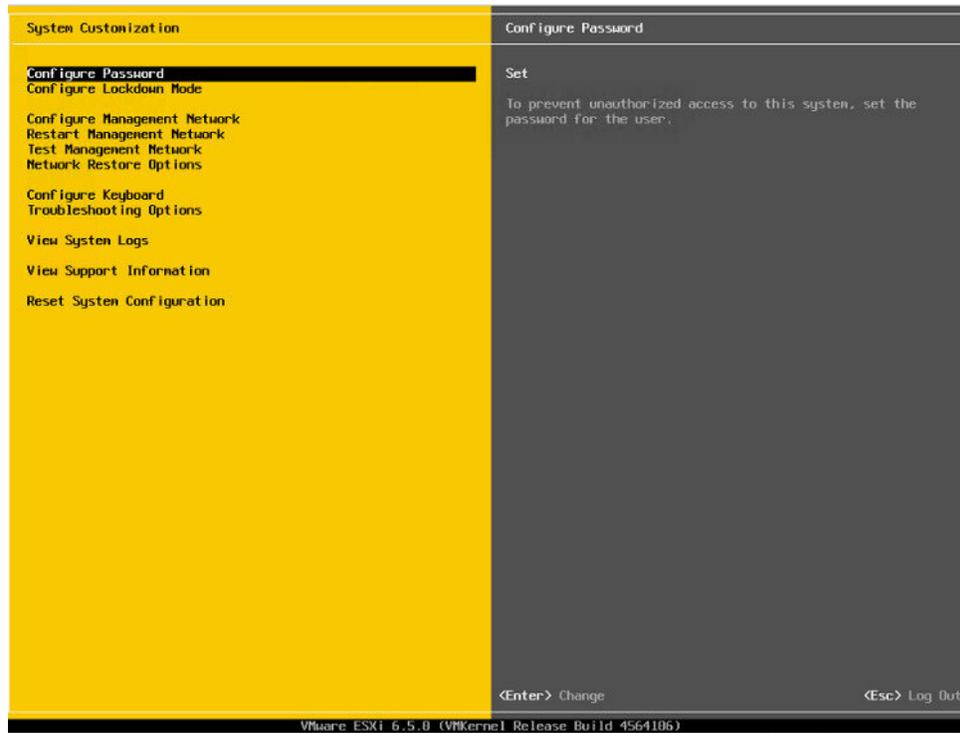
図 4: ESXi のロード後のコンソール画面



**ステップ 2** F2 キーを押して、次の図に示すような [System Customization] メニューに入ります。

図 5: ESXi システム カスタマイズ メニュー

デフォルトのユーザ名は root、デフォルトのパスワードは c!SCo123 です。

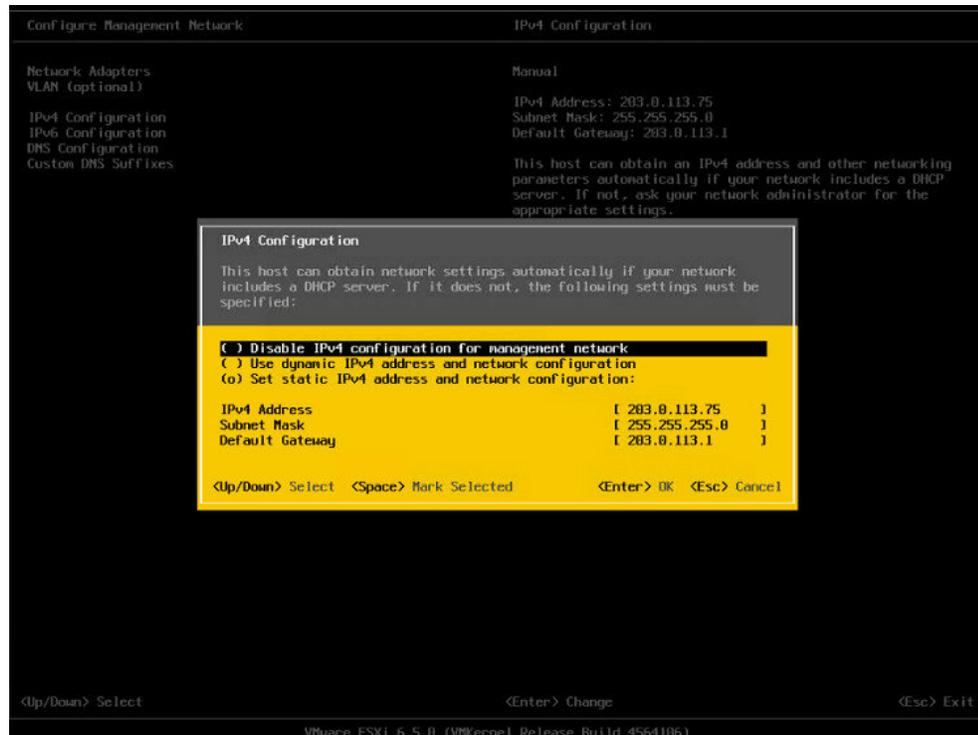


**ステップ 3** ログイン後、デフォルトのパスワードを変更する必要があります。[パスワードの設定 (Configure Password)] を選択してパスワードを変更します。

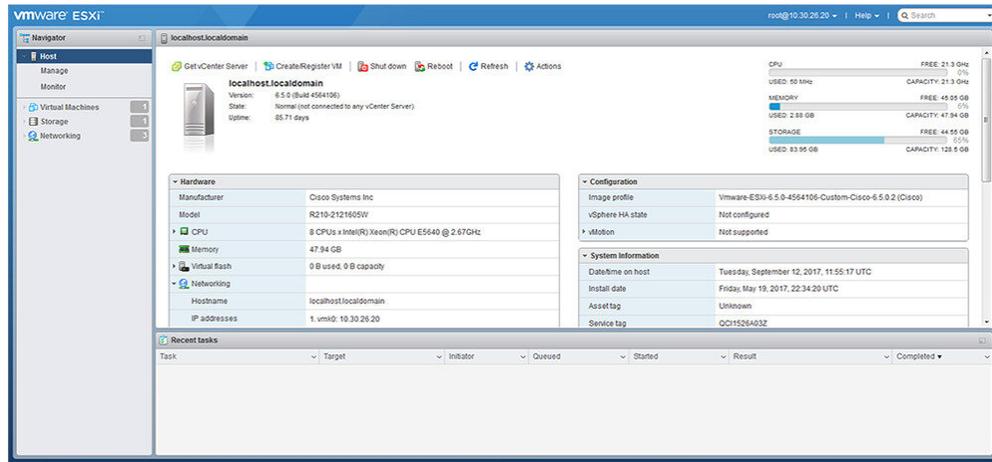
アプリケーションが事前導入されている場合は、5 に進みます。

**ステップ 4** 固定 IP アドレスを割り当てるには、[管理ネットワークの設定 (Configure Management Network)] メニューを選択し、画面の指示に従って「[IP の設定]」を変更します。

図 6: ESXi ホストへの固定 IP アドレスの割り当て



**ステップ 5** PC をデータ ネットワークに接続し、新しいハイパーバイザの IP アドレスにアクセスします。

図 7: ハイパーバイザの **Welcome** ページ

## 仮想化ソフトウェアのアクセスと設定

一部の Business Edition アプリケーションでは、ホストで有効な時間を参照する必要があります。次の手順に従って、ESXi ホストにアクセスし、NTP を設定し、NIC チューニング機能を使用してネットワークインターフェイスカード (NIC) の耐障害性を設定し、プリインストールされたアプリケーションを表示し、データストアを参照して、プリロードされたコラボレーションアプリケーションソフトウェアを確認します。

### 手順

**ステップ 1** 「[https://\[ESXI-HOST-IP-Address\]/ui/](https://[ESXI-HOST-IP-Address]/ui/)」を参照して、VMware Embedded Host Client にアクセスします。

図 8: **VMware Embedded Host Client** を使用して仮想化ソフトウェアにアクセス

**ステップ 2** 以前に設定したログインクレデンシャルを使用します。

**ステップ 3** 引用符で囲まれた時点で選択されている場合、BE 7000 アプライアンスには、Cisco Business Edition Embedded Virtualization Basic Plus の Collaboration Embedded OEM ライセンスが出荷時に組み込まれます。このライセンスを使用する場合は、すぐに使用することができます。このライセンスの再アップロードまたはバージョンのアップグレードを行う場合は、次の手順に従ってください。

- a) Cisco Business Edition Embedded Virtualization ライセンスのライセンス シリアル番号が含まれているライセンスのドキュメントを見つけ出します。インストールを行う場合、ライセンス シリアル番号は、アプライアンスに付属して発行されています。バージョンアップグレードの場合は、ライセンス シリアル番号は、cisco.com の「My Cisco Entitlements (MCE)」から出荷されます。
- b) [管理 (Manage) ]>[ライセンス (License) ]>[ライセンスの割り当て (Assign License) ]に移動します。
- c) ライセンス シリアル番号を入力するか、ライセンス ドキュメントからコピーして貼り付けます。
- d) [ライセンスのチェック (Check License) ]をクリックして、ライセンス キーを検証します。

(注) 「組み込み仮想化ライセンスは、汎用の vSphere ESXi ライセンスまたはパートナー アクティベーションコード (PAC) と同じようには機能しません。これらは 2-CPU にハードコーディング、事前統合され、myvmware.com から分割または拡張できません。これらは、VMware パートナー アクティベーションコード (PAC) でも、シスコ製品認証キー (PAK) でもありません。これらは事前にアクティブ化され、myvmware.com または cisco.com で登録またはアクティベーションはありません。vCenter によるインストール、vCenter でのライセンス プーリング、または vCenter 機能はサポートされていません。

詳細については、「付録」を参照してください。

**ステップ 4** [NTP 設定の構成 (Configure NTP Settings) ] :

- a) [管理 (Manage) ]>[システム (System) ]>[日付と時刻 (Time & date) ]に移動します。
- b) [設定の編集 (Edit settings) ]をクリックして、[時間設定の編集 (Edit time configuration) ]画面を立ち上げます。
- c) [このホストの日付と時刻を手動で設定する (Manually configure the date and time on this host) ]チェック ボックスをオンにします。
- d) 時間を更新します。
- e) [ネットワーク タイム プロトコルを使用する (NTP クライアントを有効にする) (Use Network Time Protocol (enable NTP client) ) ]チェック ボックスをオンにします。
- f) [NTP サービス スタートアップ ポリシー (NTP service startup policy) ]ドロップダウンから、[ホストで開始および停止 (Start and stop with host) ]を選択します。
- g) [NTP サーバ (NTP servers) ]に NTP サーバの IP アドレスを入力します。複数の NTP サーバを追加する場合は、NTP サーバの IP アドレスをコンマで区切って入力します。
- h) [保存 (Save) ]をクリックします。

**ステップ 5** (任意) VMware の NIC チューニング機能を使用して、耐障害性を設定します。

- [ ネットワーキング (Networking) ] > [ 管理ネットワーク (Management Network) ] に移動します。
- [ 設定の編集 (Edit settings) ] をクリックして、[ ポート グループの編集 : 管理ネットワーク (Edit port group- Management Network) ] を立ち上げます。
- [ ポート グループの編集 : 管理ネットワーク (Edit port group- Management Network) ] 画面で、名前、VLANID、仮想スイッチを入力します。
- NIC チューニングを導入し、必要な詳細を入力します。
- [ 保存 (Save) ] をクリックして、接続されている NIC をデータ ネットワークに追加します。

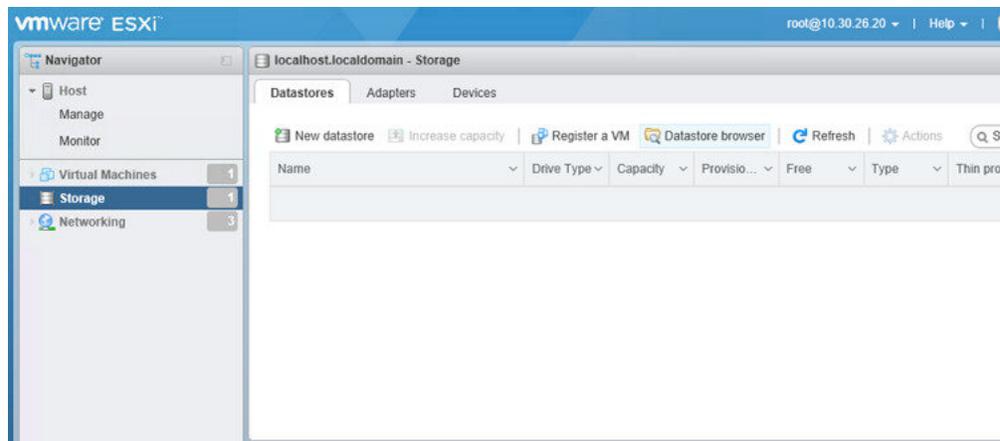
(注) デフォルトでは、ハイパーバイザで有効な NIC は 1 つだけで、vmnic0 として識別されます。

**ステップ 6** データ ストアを参照します。

- [ ストレージ (Storage) ] > [ データストア (Datastore) ] に移動して、Business Edition アプライアンスのデータストアのリストを表示します。
- datastore1 を選択します。
- [ データストア ブラウザ (Datastore browser) ] をクリックします。プリロード コラボレーション仮想マシンおよびプリロード ソフトウェアを表示できます。

(注) データストアの作成中は、VMFS5 ファイルタイプを選択する必要があります。

図 9: プリロード コラボレーション仮想マシンおよびプリロード ソフトウェアをデータストアで参照



**ステップ 7** (オプション) シスコは OVA-ISO ディレクトリをローカルにアーカイブすることを推奨します。アプライアンスに障害が発生した場合、代替ハードウェアにはプリロードコンテンツは含まれません。

## 未使用または不要な仮想マシンの削除

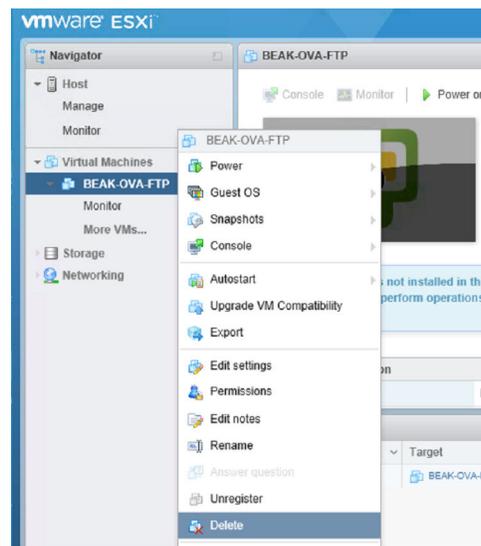
次のようなシナリオで、未使用または不要なプリロードファイルを削除して、ディスク領域を解放したり、後続のインストールのためのスペースを確保したりすることができます。

- 既存のプリロードアプリケーションよりも新しいアプリケーションバージョンまたはパッチレベルを導入する場合。
- 特定のプリロードアプリケーションとそのファイルを実行しない場合。

## 手順

ステップ 1 VMware Embedded Host Client にログインします。

図 10: 使用していない VM の削除



ステップ 2 [仮想マシン (Virtual Machines)] を導入して、削除する仮想マシンを見つけます。

ステップ 3 VM に緑の三角形が付いている場合は、アイコンを右クリックして [電源 (Power)] > [電源オフ (Power Off)] を選択します。

VM の電源がオフになると、緑色の矢印が消えます。

ステップ 4 VM を右クリックして、[削除 (Delete)] を選択します。

ステップ 5 削除する仮想マシンごとに、この手順を繰り返します。

## アプリケーションのセットアップ

Cisco Business Edition 7000 アプライアンス上でアプリケーションを設定するには、次のタスクを実行します。

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	仮想マシン OVA の導入 (18 ページ)	インストールする各 UC アプリケーションの仮想マシン OVA を導入します。
ステップ 2	Cisco Unity Connection 用の仮想マシンのカスタマイズ (19 ページ)	Business Edition 7000 の展開に Cisco Unity Connection が含まれている場合は、Unity Connection VM をカスタマイズします。
ステップ 3	アプリケーション ISO ファイルと仮想マシンの関連付け (20 ページ)	ISO ファイルを必要とする UC アプリケーションをインストールする場合は、ISO ファイルをアプリケーション VM にマウントします。  (注) ISO インストール ファイルを使用するアプリケーションのリストについては、アプライアンスのプリロードサマリーを参照してください。
ステップ 4	ゼロタッチインストールを使用した UC アプリケーションのインストール (21 ページ)	オンプレミスの場合、HTTP のデフォルトは 8090、HTTPS のデフォルトは 8181 です。ゼロタッチインストールを使用して、次のコア UC アプリケーションをインストールします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Unified Communications Manager</li> <li>• IM and Presence Service</li> <li>• Cisco Unity Connection</li> <li>• Cisco Unified Contact Center Express</li> </ul> (注) 必要な場合は、これらのアプリケーションに手動インストールを使用することもできます。
ステップ 5	UC アプリケーションの手動インストール (25 ページ)	残りの UC アプリケーションをインストールするには、手動のインタラクティブなプロセスを使用します。

## 仮想マシン OVA の導入

実行するアプリケーションごとに、いずれかのプリロードされた仮想マシン OVA ファイルが必要です。新しいバージョンを優先する場合は、既存のバージョンを削除することをお勧めします。

プリロードされたアプリケーションに応じて、OVA には次のいずれかのアプリケーションが含まれています。

- 完全にインストールされて実行準備ができているアプリケーション
- 部分的にインストールされているアプリケーション
- 空の仮想マシン用の VM 設定

詳細については、リリース ノートのプリロード ファイルの概要 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-release-notes-list.html> [英語]) を参照してください。



- (注) 空の仮想マシンが含まれている OVA テンプレート ファイルは数秒で導入できますが、部分的または完全にインストールされたアプリケーションが含まれている大きい OVA ファイルの導入には時間がかかる場合があります。



- 注意** アプライアンスと組み込み仮想化ライセンスが適切に動作することを確認し、ESXi の Cisco UCS 固有のイメージを使用して ESXi 6.5 U2 以降を実行していることを確認します。

### 手順

- ステップ 1** VMware Embedded Host Client で、[**仮想マシン (Virtual Machines)**] に移動します。
- ステップ 2** [**仮想マシン (Virtual machines)**] を右クリックして、[**VM の作成/登録 (Create/Register VM)**] を選択します。
- ステップ 3** 作成タイプの選択として、[**OVF または OVA ファイルから仮想マシンを導入 (Deploy a virtual machine from an OVF or OVA file)**] を選択します。
- ステップ 4** 仮想マシンに意味のある名前を指定します。
- ステップ 5** PC 上でソースの OVA テンプレート ファイルを参照し、選択します。アプリケーションとファイル名のマッピングについては、データストアの OVA-ISO ディレクトリにある、または <https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-release-notes-list.html> からダウンロードした『Build Summary PDF』を参照してください。
- ステップ 6** 構成ファイルとディスク ファイルを格納するデータストアを選択します。
- ステップ 7** 導入オプションを選択します。

- ステップ 8 ライセンス契約書に同意するように求められた場合は、引き続き **[Next]** をクリックします。
- ステップ 9 導入オプションを選択します。
- ステップ 10 **[Disk Format]** を指定するように求められた場合は、**[Thick Provision Lazy Zero]** を指定します。
- ステップ 11 ウィザードを終了する前に設定の選択を確認します。
- ステップ 12 **[次へ (Next) ]** をクリックします。
- ステップ 13 次のタスクに進む前に、すべての UC アプリケーションの VM を導入します。

システムに Cisco Unity Connection が含まれている場合は、*Cisco Unity Connection* の仮想マシンをカスタマイズします。そうでない場合は、アプリケーション ISO ファイルと仮想マシンの関連付けします。

---

## Cisco Unity Connection 用の仮想マシンのカスタマイズ

カスタマイズされたインストールでは、次の手順を使用して、最適なパフォーマンスを確保するように Cisco Unity Connection 仮想マシンの設定を行います。

### 事前設定

#### 始める前に

カスタマイズされたインストールでは、次の手順を使用して、最適なパフォーマンスを確保するように Cisco Unity Connection 仮想マシンの設定を行います。 [仮想マシン OVA の導入 \(18 ページ\)](#)

### 手順

- 
- ステップ 1 VMware Embedded Host Client で、**[仮想マシン (Virtual Machines) ]** に移動します。
- ステップ 2 **[Unity Connection]** エントリを右クリックして、**[設定の編集 (Edit Settings) ]** を選択します。
- ステップ 3 Unity Connection、ユニファイドメッセージング、または統合メッセージングを使用する場合は、次の手順を実行します。
- [仮想ハードウェア (Virtual Hardware) ]** タブを選択します。
  - [CPU]** メニューを選択して、**[ソケット当たりのコア (Cores per Sockets) ]** の数を **[2]** に設定します。
  - [予約 (Reservation) ]** タブで、予約を **[5.06 MHz]** に増やします。

詳細については、[https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/connection/12x/supported\\_platforms/b\\_12xcucspl.html](https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/12x/supported_platforms/b_12xcucspl.html) を参照してください。

---

## アプリケーション ISO ファイルと仮想マシンの関連付け

次のいずれかの部分的にインストールされているアプリケーションが含まれるスキップインストール OVA を導入している場合は、この手順をスキップします。

- Cisco Unified Communications Manager
- IM and Presence Service
- Cisco Unity Connection
- Cisco Unified Contact Center Express
- Cisco Emergency Responder

実行準備ができていて完全にインストールされたアプリケーションが含まれる OVA を導入した場合は、この手順をスキップします。

空の仮想マシンの VM 設定のみが含まれる他のすべての OVA ファイルの場合は、この手順を使用して、インストールを完了するために使用される ISO インストール ファイルを関連付けます。



- (注) アプライアンスのインストール ファイルの最新のリストについては、アプライアンスのダウンロード サマリーを参照してください。この資料は、データストアの OVA-ISO ディレクトリまたは <https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/business-edition-7000/products-release-notes-list.html> にあります。[英語]。

### 手順

- ステップ 1 VMware Embedded Host Client で、UC アプリケーション仮想マシンを選択します。
- ステップ 2 [編集 (Edit)] をクリックします。
- ステップ 3 [仮想ハードウェア (Virtual Hardware)] タブで、[CD/DVD ドライブ 1 (CD/DVD Drive 1)] を選択します。
- ステップ 4 [CD/DVD ドライブ 1 (CD/DVD Drive 1)] ドロップダウン リストから、[データストア ISO ファイル (Datastore ISO File)] を選択します。
- ステップ 5 データストアを参照して、アプリケーション ISO ファイルを見つけます。
- ステップ 6 ファイルを選択して、[選択 (Select)] をクリックします。
- ステップ 7 [CD/DVD ドライブ 1 (CD/DVD Drive 1)] で、[ステータス (Status)] にある [電源オン時に接続 (Connect at power on)] チェック ボックスをオンにします。
- ステップ 8 ISO ファイルを含むインストール対象のアプリケーションごとに、この手順を繰り返します。

# ゼロタッチインストールを使用したUCアプリケーションのインストール

ゼロタッチインストールを使用すると、インストールプロセスの実行中にシステムと対話することなく、複数の UC アプリケーションと、アプリケーションの仮想マシンをさまざまなホスト（必要な場合）に同時にインストールすることができます。ゼロタッチインストールでは、システムを準備する必要がありますが、特に複数のアプリケーションをインストールする場合に時間を節約できます。インストールするアプリケーションが1つまたは2つだけの場合は、次のセクションに示す手動の手順を実行することもできます。

ゼロタッチインストールを使用して、次のアプリケーションをインストールします。

- Cisco Unified Communications Manager
- IM and Presence Service
- Cisco Unity Connection
- Cisco Unified Contact Center Express
- Cisco Prime Collaboration Deployment

## 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	応答ファイルの生成 (21 ページ)	UC アプリケーションのアンサーファイル (AFG ファイル) を生成します。
ステップ 2	仮想フロッピー イメージの作成 (22 ページ)	AFG ファイルを使用して仮想フロッピー イメージを作成します。
ステップ 3	仮想フロッピー イメージのデータストアへのアップロード (23 ページ)	仮想フロッピー イメージをデータストアにアップロードします。
ステップ 4	仮想マシンでの仮想フロッピーのマウントとブートオプションの設定 (24 ページ)	個々の仮想フロッピーを対応する UC アプリケーション VM にマウントします。
ステップ 5	ゼロタッチインストールの実行 (24 ページ)	UC アプリケーションのゼロタッチインストールを実行します。インストールを同時に実行することを推奨します。

## 応答ファイルの生成

UC アプリケーションのゼロタッチインストール用のアンサーファイルを生成するには、次の手順を使用します。



**ヒント** ファイルが混在しないように、アプリケーションごとに生成されたファイルを保存するフォルダ（たとえば、UCM、IMP、CUC、CCX）を作成することを推奨します。

#### 手順

- ステップ 1** オンラインの応答ファイルジェネレータ ([www.cisco.com web cuc\\_afg](http://www.cisco.com/web/cuc_afg)) にアクセスします。
- ステップ 2** [製品 (Product)] ドロップダウンメニューから、対応する応答ファイルを生成する UC アプリケーションを選択します。
- ステップ 3** インストールするバージョンを選択します。
- ステップ 4** アプライアンスに設定するインストールの詳細情報を残りのフィールドに入力します。たとえば、パスワード、IP アドレッシング、DNS 設定などの項目を割り当てることができます。
- ステップ 5** [応答ファイルの生成 (Generate Answer Files)] をクリックして、その UC アプリケーションの platformConfig.xml ファイルを生成します。  
各 UC アプリケーションによって platformConfig.xml ファイルが生成されます。Cisco Unified Communications Manager では、clusterConfig.xml ファイルも生成されます。
- ステップ 6** 次のようにして、生成されたアンサー ファイルを保存します。
- Cisco Unified Communications Manager については、platformConfig.xml および clusterConfig.xml ファイルを UCM フォルダに保存します。
  - その他の UC アプリケーションについては、platformConfig.xml ファイルを対応するアプリケーションフォルダに保存します。
- ステップ 7** ゼロタッチインストールを使用する UC アプリケーションごとに、これらの手順を繰り返します。

## 仮想フロッピーイメージの作成

アンサー ファイルから仮想フロッピーイメージを作成するには、次の手順を使用します。仮想フロッピーイメージはゼロタッチインストールで使用します。



**ヒント** .flp ファイルの推奨命名規則に従うことを推奨します。

#### 始める前に

1. Winimage を使用して仮想フロッピーイメージを作成できます。Winimage は <http://www.winimage.com/download.htm> からダウンロードできます。その他のツール (BFI など) を使用して仮想フロッピーイメージを作成することもできます。
2. [応答ファイルの生成 \(21 ページ\)](#)

## 手順

- ステップ 1 Winimage で、[ファイル (File)] > [新規 (New)] を選択します。
- ステップ 2 [標準形式 (Standard format)] から、[1.44 MB] を選択して、[OK] をクリックします。
- ステップ 3 UC アプリケーションの platformConfig.xml ファイルを Winimage ウィンドウにドラッグします。
- ステップ 4 Winimage にファイルを挿入するように求められたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ 5 Cisco Unified Communications Manager のみ。clusterConfig.xml ファイルを [Winimage] ウィンドウにドラッグします。
- ステップ 6 [File] > [Save as] を選択します。
- ステップ 7 次の命名規則を使用して、ファイルを仮想フロッピー イメージ (.flp ファイル) として保存します。
  - Cisco Unified Communications Manager : ucm.flp
  - IM and Presence サービス : imp.flp
  - Cisco Unity Connection : cuc.flp
  - Cisco Unified Contact Center Express : ccx.flp
- ステップ 8 ゼロタッチインストールを使用する UC アプリケーションごとに、この手順を繰り返します。

## 仮想フロッピー イメージのデータストアへのアップロード

仮想フロッピー イメージをデータストアにアップロードするには、次の手順を使用します。

### 始める前に

仮想フロッピー イメージの作成

### 手順

- ステップ 1 VMware Embedded Host Client を開始します。
- ステップ 2 [ストレージ (Storage)] を選択します。
- ステップ 3 データストアを右クリックして、データ ストアを参照します。
- ステップ 4 アップロード先のディレクトリに移動して、[アップロード (Upload)] アイコンをクリックします。
- ステップ 5 vFloppy イメージを AFG フォルダにアップロードします。
- ステップ 6 [アップロード/ダウンロード (Upload/Download)] の警告で、[はい (Yes)] をクリックします。
- ステップ 7 [データストア ブラウザ (Datastore Browser)] ウィンドウを閉じます。

## 仮想マシンでの仮想フロッピーのマウントとブートオプションの設定

UC アプリケーションの仮想フロッピー イメージを対応する VM にマウントするには、次の手順を使用します。



(注) 事前導入 VM はすでに設定されているため、このステップは事前導入 VM では不要です。

### 始める前に

仮想フロッピー イメージのデータストアへのアップロード

### 手順

- ステップ 1 VMware Embedded Host Client で、UC アプリケーション仮想マシンを選択します。
- ステップ 2 [仮想マシン (Virtual Machine)] を選択します。
- ステップ 3 [編集 (Edit)] をクリックします。
- ステップ 4 [仮想ハードウェア (Virtual Hardware)] タブで、[フロッピー ドライブ (Floppy drive)] を選択します。
- ステップ 5 [既存のフロッピー イメージを使用 (Use existing floppy image)] を選択します。
- ステップ 6 データストアを参照して、仮想フロッピー イメージを見つけます。
- ステップ 7 ファイルを選択して [OK] をクリックします。
- ステップ 8 [ステータス (Status)] から、[電源オン時に接続 (Connect at power on)] オプションを有効にします。
- ステップ 9 [VM オプション (VM Options)] タブをクリックします。[ブートオプション (Boot Options)] から、[強制的に BIOS に移行 (Force BIOS setup)] チェック ボックスをオンにしてから、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 10 ゼロタッチインストールを実行する UC アプリケーションごとに、この手順を繰り返します。

## ゼロタッチ インストールの実行

仮想フロッピー ドライブをアプリケーション VM にマウントしたら、ゼロタッチ インストールプロセスを実行します。すべてのゼロタッチ インストールを同時に実行することをお勧めします。



(注) VM が事前導入されている場合は、ステップ 6 のみを実行する必要があります。

## 手順

- ステップ 1 VMware Embedded Host Client で、VM を右クリックして、[コンソール (Console)] > [新しいウィンドウでコンソールを開く (Open console in new window)] を選択します。  
コンソール ウィンドウが開きます。
- ステップ 2 コンソール ツールバーの [電源オン (Power On)] アイコンをクリックして、仮想マシンの電源をオンにします。
- ステップ 3 BIOS 画面が表示されたら、次のブート順序を設定します。
  - a) CD-ROM
  - b) Hard Drive
  - c) Removable Devices
  - d) Network
- ステップ 4 設定を保存してコンソールを終了します。  
UC アプリケーションのインストールがすぐに開始されます。
- ステップ 5 インストールする UC アプリケーションごとに、これらの手順を繰り返します。
- ステップ 6 インストールが完了したら、仮想マシンから vFloppy の設定を削除します。

## UC アプリケーションの手動インストール

ゼロタッチインストールオプションがない UC アプリケーション (Cisco Emergency Responder など) をインタラクティブなインストールプロセスに従ってインストールするには、次の手順を使用します。

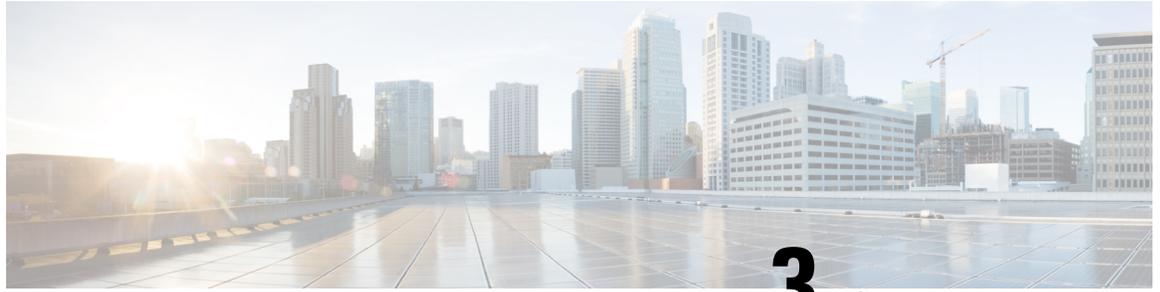
## 手順

- ステップ 1 vSphere Client で、インストールするアプリケーションの VM の電源をオンにします。
- ステップ 2 VM を右クリックして、[コンソール (Console)] > [新しいウィンドウでコンソールを開く (Open console in new window)] を選択します。  
コンソール ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3 画面のプロンプトに従って、コンソールからアプリケーションをインストールします。
- ステップ 4 手動の方法を使用して Cisco Unified Communications Manager と IM and Presence サービスの両方をインストールする場合は、Cisco Unified Communications Manager パブリッシャ ノードのインストールを完了した後で、次の手順を実行します。
  - a) VMware Embedded Host コンソールから、Cisco Unified Communications Manager CLI にログインします。
  - b) `set network cluster subscriber dynamic-cluster-configuration 24` コマンドを実行します。
  - c) IM and Presence またはサブスクリバ仮想マシンの VMware Embedded Host コンソール ウィンドウを開きます。

- d) 仮想マシンの電源をオンにします。
- e) アプリケーションの設定情報を入力して、インストールを完了します。

**ステップ 5** インストールする UC アプリケーションごとに、この手順を繰り返します。

---



## 第 3 章

# Cisco Business Edition 7000H/M のインストール後

- [Cisco Business Edition 7000H/M のインストール後 \(27 ページ\)](#)

## Cisco Business Edition 7000H/M のインストール後

Cisco Business Edition 7000H/M のインストール後に、次の手順を実行します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<a href="#">ライセンスアプリケーション (27 ページ)</a>	初回セットアップを実行して UC アプリケーションのライセンスを適用するには、次の手順を実行します。
ステップ 2	<a href="#">アプリケーションのロケールまたはパッチのインストール (29 ページ)</a>	(任意) UC アプリケーションの新しいロケールをインストールします。

## ライセンスアプリケーション

**Cisco Smart Licensing** でライセンスされたアプリケーションは、Business Edition 7000 でプリロードされた Cisco Unified Communications Manager 12.5 に適用されます。Cisco Smart Software Licensing の概要については、「[Cisco Unified Communications Manager ソリューションの概要](#)」を参照してください。

このセクションをスキップしてください。

**Product Authorization Keys (PAKs)** でライセンスされたアプリケーションは、Business Edition 7000 でプリロードされた Cisco Unified Communications Manager 11.5 に適用されます。



(注) 1.x アプリケーションは、仮想化ソフトウェアバージョン 7.x のアプライアンスでプリロードされません。11.x アプリケーションのライセンス保管情報は、便利性的ためここで保管されません。

各アプリケーションにアクセスし、一部のアプリケーションの初期設定を実行し、ライセンスを適用するには、次の手順を実行します。

#### 手順

- ステップ 1** 個々のアプリケーションの管理ポータルにアクセスするには、アプリケーションの IP アドレスに移動します。次の情報を考慮します。
- (任意) ページングサーバのインストールの場合：仮想マシンコンソールからアプリケーション URL に関する情報を収集します。デフォルトの初回のユーザ名とパスワードは、**admin** と **changeMe** です。
  - **Cisco Prime Collaboration Provisioning**：IP アドレスに移動し、ユーザ名として **globaladmin** を使用します。
  - **Cisco Prime Collaboration Assurance and Analytics Business**：IP アドレスに移動し、ユーザ名として **globaladmin** を使用します。
  - **Cisco Prime Collaboration Deployment**:  
IP アドレスを参照し、インストール時に指定した管理者アカウントとパスワードを使用します。詳細については、『[Cisco Prime Collaboration Deployment Administration Guide, Release 11.5\(2\) Admin Guide](#)』を参照してください。
- ステップ 2** アプリケーションライセンスの購入後に、シスコから製品認証キー (PAK) が郵送されるか、電子メールで送信されます。PAK を使用すると、シスコ製品ライセンス登録ポータル ([www.cisco.com/go/license](http://www.cisco.com/go/license)) を使用して特定のインストール用のライセンス キーを生成できます。Cisco Prime License Manager に直接情報を入力することもできます。
- ステップ 3** アプリケーション管理ポータルを使用してライセンスキーを適用します。インストールしたアプリケーションに固有のライセンス情報については、次の点を参照してください。
- **Cisco Prime Collaboration Provisioning**：Cisco Prime Collaboration Provisioning Standard Edition の使用にライセンスは不要です。必要に応じて Cisco Prime Collaboration Provisioning Advanced Edition へのアップグレードを購入できます。
  - **Cisco Prime Collaboration Assurance and Analytics**：Cisco Prime Collaboration Assurance Standard Edition の使用にライセンスは不要です。必要に応じて Cisco Prime Collaboration Assurance Advanced and Analytics または Advanced Edition へのアップグレードを購入できます。
  - **Cisco Prime Collaboration Deployment**：Cisco Prime Collaboration Deployment には Cisco Unified Communications Manager のライセンスが付与されているため、Cisco Prime Collaboration Deployment Edition の使用にライセンスは不要です。
  - **Paging Server**：Basic Paging Server の使用にライセンスは不要です。必要に応じて Advanced Edition へのアップグレードを購入できます。

- Unified Communications Manager、Cisco Unity Connection、および Cisco Emergency Responder:

(注) Cisco Prime License Manager (PLM) は、Cisco Unified Communications Manager および Cisco Unity Connection のインストールの一環として自動的にインストールされます。Unified Communications Manager パブリッシャとともにインストールされたインスタンスだけを使用して、すべてのライセンスを管理します。別の Prime License Manager インスタンスを使用して、Unified Communications Manager と Unity Connection のライセンスを別個に管理しないでください。詳細については、『Cisco Prime License Manager User Guide』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/cloud-systems-management/prime-license-manager/products-user-guide-list.html>) を参照してください。または、データストア内のファイルを使用して、スタンドアロンの PLM インスタンスをインストールすることもできます。

## アプリケーションのロケールまたはパッチのインストール

アプリケーション VM のロケールまたはパッチをインストールするには、次のタスクを完了します。



- (注)
- アプライアンスに付属するパッチは、製造の時点での最新のパッチです。より新しい更新プログラムを入手するには、<http://software.cisco.com> にアクセスしてください。
  - ロケールの詳細については、電話ロケールインストーラの Wiki (<http://docwiki.cisco.com/wiki/Cucm-phone-locale-installers>) を参照してください。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	仮想マシンとのバンドル ロケールまたはパッチ ISO の関連付け	ロケールまたはパッチのインストーラを適切な VM に関連付けます。
ステップ 2	Unity Connection のサービスの停止は、次のページにあります。	Cisco Unity Connection のロケールまたはパッチをインストールする場合は、ロケールまたはパッチをインストールする前にサービスを停止してください。
ステップ 3	新しいロケールまたはパッチのインストール	VM にロケールまたはパッチをインストールします。

## 仮想マシンとのバンドル ロケールまたはパッチ ISO の関連付け

### 始める前に

次の手順を実行して、インストールプロセスを開始する前にロケールまたはパッチのイメージを適切なアプリケーション VM に関連付けます。

### 手順

- ステップ 1 VMware Embedded Host Client で、新しいロケールまたはパッチをインストールする仮想マシンを選択します。
- ステップ 2 [編集 (Edit) ] をクリックします。
- ステップ 3 [仮想ハードウェア (Virtual Hardware) ] タブで、[CD/DVD ドライブ (CD/DVD Drive) ] を選択します。
- ステップ 4 [CD/DVD ドライブ 1 (CD/DVD Drive 1) ] ドロップダウン リストから、[データストア ISO ファイル (Datastore ISO File) ] を選択します。
- ステップ 5 データストアを [参照 (Browse) ] して、適切なロケールまたはパッチ ISO ファイルを選択します。
- ステップ 6 [選択 (Select) ] をクリックします。
- ステップ 7 [CD/DVD ドライブ 1 (CD/DVD Drive 1) ] で、[ステータス (Status) ] にある [電源オン時に接続 (Connect at power on) ] チェック ボックスをオンにします。
- ステップ 8 新しいロケールまたはパッチをインストールする VM ごとに、この手順を繰り返します。

## Unity Connection のサービスの停止

Cisco Unity Connection の新しいロケールまたはパッチをインストールする場合は、次の手順を使用します。新しいロケールまたはパッチをインストールする前に、Unity Connection VM で動作しているサービスを停止する必要があります。

### 手順

- ステップ 1 Cisco Unity Connection Serviceability にログインします。
- ステップ 2 [ツール (Tools) ] > [サービスの管理 (Service Management) ] を選択します。
- ステップ 3 次のサービスを停止します。
  - 接続会話マネージャ
  - 接続ミキサー

## 新しいロケールまたはパッチのインストール

Business Edition アプライアンスに UC アプリケーションの新しいロケールまたはパッチをインストールするには、次の手順を使用します。



- (注)
- Cisco Unified Communications Manager の場合は、サブスクリバノードにインストールする前に、パブリッシャノードのロケールまたはパッチをインストールしてノードを再起動する必要があります。
  - Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection のロケールを並行してインストールできます。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications OS の管理にログインします。
- ステップ 2** [ソフトウェア アップグレード (Software Upgrades)] > [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] の順に移動します。[Software Installation/Upgrade] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [Source] ドロップダウン リスト ボックスから [DVD/CD] を選択します。
- ステップ 4** [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** インストールする更新ファイルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6** ダウンロードが完了したら、[Next] をクリックします。
- ステップ 7** ロケールまたはパッチのインストール後、アプライアンスを再起動します。
- a) vSphere Client にログインします。
  - b) ロケールまたはパッチをインストールした VM を右クリックして、[電源 (Power)] > [ゲストの再起動 (Restart Guest)] を選択します。
  - a) VMware Embedded Host Client にログインします。
  - b) ロケールまたはパッチをインストールした VM を右クリックして、[ゲスト OS (Guest OS)] > [再起動 (Restart)] を選択します。

### 次のタスク

Cisco Business Edition 7000 アプライアンスをインストールした後は、ユーザとデバイスをプロビジョニングし、システムの機能を設定できます。次のガイドを参照してください。

- Cisco Prime Collaboration Provisioning ガイド
- 『Cisco Prime Collaboration 導入アドミニストレーションガイド』





## 付録 **A**

# Business Edition 7000 アプライアンスの再構築

- [Business Edition 7000 アプライアンスの再構築](#) (33 ページ)
- [ハードウェアおよび仮想化ソフトウェアの再インストール](#) (33 ページ)
- [埋め込み仮想化ライセンスの再適用](#) (34 ページ)

## Business Edition 7000 アプライアンスの再構築

次の状況では、この付録を使用します。

- アプライアンスのハードウェア交換または RMA。
- ハードウェア交換、ディスクの再フォーマット、RAID の再構築、仮想化ソフトウェアの再インストール/アップグレードなどの要因によって引き起こされたソフトウェアの再インストール。
- 埋め込み仮想化ライセンスキーの再適用

## ハードウェアおよび仮想化ソフトウェアの再インストール

ハードウェアを再プロビジョニングする必要がある場合、または VMware vSphere ESXi を再インストールする必要がある場合は、次の「仮想サーバでのシスココラボレーション」の手順に従ってください。[https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/cucm/virtual/CUCM\\_BK\\_C90D1BE9\\_00\\_cisco-collaboration-on-virtual-servers.html](https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/cucm/virtual/CUCM_BK_C90D1BE9_00_cisco-collaboration-on-virtual-servers.html)

- BE7000M (M5) アプライアンスは UCS C240 M5SX TRC#1 に対応
- BE7000H (M5) アプライアンスは UCS C240 M5SX TRC#2 に対応

## 埋め込み仮想化ライセンスの再適用

Cisco Commerce Services & cisco.com のサブスクリプションまたは My Cisco Entitlements を確認して、アプライアンスが注文した仮想化ソフトウェアオプションを確認してください。

アプライアンスが次のいずれかのオプションで注文された場合、組み込み仮想化ライセンスがあります。

- BE6/7K-VIRTBASP-7X
- BE6/7K-8X
- VMW-VS6-FND-K9
- VMW-VS6-CVSTD-K9

代わりにオプション **VIRT-LIC-NONE** でアプライアンスを注文した場合、または、別の仮想化ライセンスに置き換えた場合、組み込み仮想化ライセンスはありませんので、以下の手順は適用されません。

VMware の設計により、埋め込み仮想化ライセンスは汎用の VMware vSphere ESXi ライセンスとは異なって動作します。

- これらは Cisco TAC でサポートされています。サポートに関しては、VMware に問い合わせないで下さい。
- これらは、myvmware.com で管理されている場合もあります。
- これらは、VMware.com パートナー アクティベーション コード (PAC) でも、シスコ製品認証キー (PAK) でもありません。
- ライセンスは事前にアクティブ化されたシリアル番号のため、myvmware.com でアクティベーションを要求またはサポートしません。
- これらは固定 2-CPU に事前に組み合わされているため、myvmware.com でネットワークを介して分割または拡張することはできません。
- これらは、Embedded Host Client を介してアプライアンスに適用する必要があり、vCenter にこれらのライセンス キーは追加しないでください。vCenter による適用や vCenter ライセンス プールへの追加はサポートされていません。
- 詳細については、[http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice\\_ip\\_comm/uc\\_system/virtualization/virtualization-software-requirements.html#license\\_comparison](http://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/virtualization-software-requirements.html#license_comparison) を参照してください。

埋め込み仮想化ライセンスはマスターキーです。同じ埋め込み仮想化ライセンスオプションを使用して複数のアプライアンスを購入した場合は、すべてのアプライアンスが最初のインストールで同じライセンス シリアル番号を使用します。新しいメジャーリリース (6.x~7.x など) にバージョンをアップグレードすると、vCenter をサポートするライセンスが、各アプライアンス固有のライセンスキーになります。

Embedded Host Client を使用してアプライアンスに対して、組み込み仮想化ライセンス シリアル番号を適用する必要があります。vCenter にこれらのライセンス キーは追加しないでください。vCenter を介して適用しようとする、一切動作しないか、購入したアプライアンスの一部でのみ動作します。

vCenter を介して埋め込み仮想化ライセンス シリアル番号を申請する場合は、次の手順に従って「un-do (元に戻す)」（「ホスト」は、ESXi ホストとしてアプライアンスを指します）してください。

- vCenter で、ホストがスタンドアロン (vCenter によって管理されていない) であるようにし、ホストをインベントリから削除してください (重要: 「切断」するだけではなく)。
- ホストがスタンドアロン (vCenter によって管理されていない) の場合は、ホスト上の埋め込みホストクライアントで既存のライセンスキーを削除してから、埋め込み仮想化ライセンスキーを入力/割り当てます。
- vCenter に戻り、ホストをインベントリに再追加します。ステップ 2 で入力した埋め込みマスターキーが表示される必要があります。

